

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	◎	商店街（代表者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が少しずつ終息に向かっていることから、人出が徐々に回復しており、来客数も増えている。
	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べると来客数は大幅に伸びている。7～8月は新型コロナウイルス感染症発生前の2019年比で9割台後半まで来客数が回復している。それに比例して、売上の2019年比も来客数を数%上回る水準まで回復している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数に大幅な減少はみられないものの、当区域を訪れる来街者が増加している。地域住民は元より、郊外や近隣町村を結ぶバス発着場の乗降者数も増加している。また、他地域ナンバーの車両も前月と同様に目に付く。当地域に本店を有する有名菓子店の紙袋を持ち歩いている客も散見された。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・9月に入り通行客が徐々に増え始め、以前とほとんど変わらない状態の通行量となった。新型コロナウイルス感染症の第7波が減少に転じたこと、軽症者が多いことから、人々の気持ちの雪解けが進んだことが理由とみられる。通行量が増えたことによって、売上也増加しており、居酒屋などの夜型飲食店では週末に予約が取れない店も出始めた。このまま新型コロナウイルス感染症が終息に向かうことを切に願っている。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染対策としての行動規制が全国的に緩和され、国内観光客が増加したことで、9月の売上は前年比281.7%、前々年比226.8%となっている。ただ、外国人客が1人もいないため、新型コロナウイルス発生以前の2019年比では61.3%にとどまっている。結果的に新型コロナウイルス発生以前の売上の約半分が外国人客によるものであることが証明された。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・様々な客先と会話するなかで、明るい反応が増えている。特にホテルや居酒屋などの業態では、売上が順調に回復している。
	○	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりしているが、来店客の購買意欲は高まっている。買上率、客単価共に上昇しており、この傾向はこのまま続くことになる。
	○	百貨店（営業販売促進担当）	それ以外	・8月11日から閉店セールが始まり、来客数、客単価共にプラスとなっている。衣料品、服飾雑貨、リビング、子供服など、幅広い商材が好調である。
	○	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・報道のとおり、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限が緩和されていることで、客の動きが以前よりも活発になっており、売上にも好影響を及ぼしつつある。3年前と比較しても売上が伸びている。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年と比較すると、9月の来客数はやや減少しているが、売上はほぼ同じであった。冬物家電に対する客の動きに活気が出ている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車効果があり、その先行予約が順調に進んでいるため、車の販売量自体は好調である。納期の兼ね合いで売上としては厳しい面があるが、これから順調に上向いてくるとみられるため、景気はやや良くなっている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・客の動きが多少は良くなっており、新車の受注にも好影響が出てきている。
	○	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・3か月前と比べると、景気はやや良くなっている。ただ、医療商材を扱っている関係で、前々年から前年に掛けてマスクや衛生品がよく売れた分、数字的には過去2年を下回っている。
	○	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・旅行の決定に、新型コロナウイルスの新規感染者数の増減がリンクすることが少なくなっており、集客について多少の改善がみられる。ただ、消費単価が高くなる傾向にある遠方地域からの集客は依然として苦戦している。

○	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・予約の動きが活発になり、稼働も大幅に伸びている。3連休を中心に家族連れも増えており、少しずつ新型コロナウイルス感染症発生前の姿を取り戻しつつある。
○	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減りつつあるなか、全国旅行支援の話も出ていることから、徐々にではあるが問合せが増えつつある。
○	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症について、感染対策よりも経済優先にシフトしていることで、人の流れが以前の状態に戻り始めている。
○	観光名所(従業員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたこともあり、国内観光客の入込数が例年並みの水準に回復しつつある。
○	美容室(経営者)	来客数の動き	・9月初めは新型コロナウイルス感染症の影響で売上が落ち込んでいたが、感染状況が徐々に落ち着いてきたことで売上が急激に回復している。ほぼ新型コロナウイルス発生以前の売上にまで回復している。
□	一般小売店(経営者)	販売量の動き	・テレビの販売台数が伸び悩んでいることから、景気が上向くには販売台数が増えてこないと感じている。
□	百貨店(売場主任)	販売量の動き	・多くの商材で値上げに向けた動きがあることから、客の節約志向がみられ始めており、販売量にも影響が出ている。
□	百貨店(マネージャー)	来客数の動き	・来客数の前年比をみると、6月が前年比90%、7月が前年比95%、8月が前年比93%、9月が24日時点で前年比91%となっており、ほぼ横ばいでの推移となっている。買上客数は前年比110%前後で推移しているが、物価高の影響を受けて節約志向が強まる懸念もあり、今後、どちらに振れるか不透明な部分もある。
□	スーパー(店長)	それ以外	・相変わらず新型コロナウイルスの感染状況による振れがみられるが、ならずと全体的には変わらない。感染症法上の分類をこれまでの2類相当から5類に変更するような大きな変化がない限り、小康状態が続くとみられる。
□	乗用車販売店(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症に関連しての行動制限がないため、一部の地域で観光客の動きが活発になっており、それに伴ってレンタカー需要が活発になっている。一方で、新型コロナウイルスの新規感染者数の高止まり、様々な物の価格高騰、長納期化などの問題によって、来場者数が回復してこない。
□	自動車備品販売店(店長)	お客様の様子	・カー用品の動きとしては必要なメンテナンスなどは行うものの、ぜいたく品の購入が少ない状況にある。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド](経営者)	単価の動き	・石油製品価格が高止まりしており、状況に変化がみられない。
□	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・ランチは好調であったが、夕食が伸びなかったことから、2年前の売上の50%前後になりそうで、どちらともいえない状況にある。出入り業者からは、市内の高級店では9月に入ってもワインの売上が良くないと聞いた。その一方で、中心部で開催されているイベントでは道産ワインが人気で昼から売れているようであらやましい。また、観光客が訪れるような低価格店も繁盛しているようだ。
□	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク時期に新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴う移動自粛などの措置もなかったことから、来客数が増加しており、その後も大きな変動がなく推移している。
□	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・景気は悪いまま変わっていない。ただ、今後の政策と新型コロナウイルス感染症の終息状況によっては、大幅な改善が期待できる。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の一時的な減少とイベント関係の規制緩和に伴って、来客数は増加傾向に転じていると期待していたが、結果的に変化はみられなかった。

□	タクシー運転手	来客数の動き	・業種的に新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、ずっと疲弊してきたが、ここに来て新型コロナウイルスの新規感染者数が減少していることに伴って、人の流れが戻りつつある。まだまだ油断はできないが、週末などは新型コロナウイルス感染症発生前並みの客の動きがみられる。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・イベントなどが再開されつつあるため、それに合わせて美容室を利用する客も増えている。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・物価が高騰しており、家計の余裕はなくなりつつあるが、今のところ、モデルルームに来訪する客に大きな変化はみられない。ただ、買い急ぐ客がやや増えている。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応は決して良いものではなかった。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・食品の売上は前年や新型コロナウイルス感染症発生前を上回る水準を確保できているが、中身をみると、来客数、買上点数共に減少傾向である。原価高騰により1品単価が上昇した分だけ売上がかさ上げされている状況であり、景気はやや悪くなっている。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・販売価格が上昇する一方で、買上点数が減少傾向にあり、客単価も低下している。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・総買上点数が減少している。商材を始め、様々な物が値上がりしていることから、客は購買品に必要な商材だけに絞っており、余分な物を買わない傾向が強くなってきている。
▲	スーパー（役員）	お客様の様子	・食料品の値上げが相次ぎ、客の節約意識がますます高まっている。
▲	スーパー（従業員）	単価の動き	・燃料、人件費などの経費や仕入価格が増加する傾向が一層強まっており、景気はやや悪くなっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・様々な商材の値上げにより客の節約志向が強まっており、そのことが来客数の減少につながっている。
▲	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数はイベント開催の効果もあって安定しているが、振り客が少なく、例年稼働するスーツ群の動きが非常に悪い。
▲	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・コロナ禍は前年と同様だが、人流抑制対策が行われていないことから、夏休みなどで行楽地に出向く人が増えており、その分だけ、買物に行く場面が減っている。そのため、来客数と買上点数の減少が顕著であった。
▲	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新車受注は前年とほぼ同じ水準で注文が入っているが、生産体制の問題から納車までに1年近く掛かることから、新型車両が出ても爆発的に売れる状況ではない。
▲	その他専門店 [造花]（店長）	お客様の様子	・一部の客については変化を余り感じないが、輸入品の取扱をしている業種については購買動向が悪化している。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しているものの、様々な物の値上がり収まらず、国、地方共に有効な対策が行われていないままである。当地への入込数が減少する季節となってきたこともあり、景気はやや悪くなっている。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・8月のお盆明けから航空機の前予約数の伸びが鈍化傾向となっている。久しぶりとなった帰省などの生活需要が一段落していることに加えて、物価高による消費マインドの低下が国内観光需要を抑制している。
▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・3か月前は旅行需要が回復傾向にあったが、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴って、旅行需要が減少している。最近になって新規感染者数が減少していることで問合せ自体は増えているが、新規予約はまだ増加に転じていない。

	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・前年は行動制限があったことで大幅なマイナスとなったが、今年では行動制限が緩和されたため、人出が増えている。9月のタクシーの売上は前年比プラス30%であった。ただ、8月頃から新型コロナウイルスの新規感染者数が増えていることで、若干客が出控えている雰囲気もみられる。新型コロナウイルス感染症発生前の2019年比では売上がマイナス30%であり、苦戦している。また、乗務員が2019年比で30%減り、タクシーの稼働台数が大きく減少していることも、売上が大きく減少した要因となっている。
	▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・大型商業施設での集客が新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻っているにもかかわらず、9月に発売された毎年話題になる通信端末の販売状況をみると、北海道全体の販売量、予約状況共に前年の3分の2程度に落ち込んでいる。関連事業のカード決済サービスの申込件数も、想定8割程度にとどまっている。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響が秋になっても続いており、輸送量が思ったほど伸びていない。
	▲	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・円安や資源価格の高騰、ウッドショックなどの影響で単価が上がっているため、販売量は減っている。単価が上がっていることで売上は維持できているが、全体的な住宅着工数は減っている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響がいまだに残っており、客が繁華街に出てきて金を使うということが余りない。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・当エリア唯一の老舗デパートの閉店が発表され、富裕層の消費が一気に減速した。また、日用食料品の度重なる値上げの影響で世帯の可処分所得が目減りする一方であり、景気に悪影響を及ぼしている。
	×	通信会社（エリア担当）	単価の動き	・販売価格も上昇しているが、その影響よりも、代理店手数料の動きによって悪化している面が大きい。
企業 動向 関連  (北海道)	◎	—	—	—
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・台風の直撃もなかったため、全ての現場の工事が順調に進んでいる。また、民間建築の新規受注や設計変更に伴う追加工事も決まっている。新型コロナウイルス感染症の第7波を経て、本格的に感染対策と経済活動を両立する段階に移行している。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上が前年から6%程度の伸びで推移する状況が継続している。年内はこうした状況が続くとみられる。
	□	農林水産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の収穫が段階的に始まっているが、気象の変動が激しく、この先の動きが読めない。また、原材料の価格が高騰しており、影響がまだまだ続くとみられる。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・全国と比べると、北海道のみ案件数が極端に少ない。道内建設業界の営業担当との情報共有でも数が少ないと認識している。景気悪化の影響を受けて、民間からの発注はここぞという案件に絞られており、官庁から発注は修繕、メンテナンスといった小粒の仕事に限られている。
	□	輸送業（従業員）	取引先の様子	・売上の推移を前年比で見ると、ほぼ前年並みで推移している。メーカーによる多少の増減はあるが、全体的には変わらない状況にある。ただ、若干ではあるが、増加傾向になり始めている雰囲気はある。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・本州向けの雑貨関連トレーラーの荷動きは堅調である。ただ、新物発生前の農産製品が今一つ伸びてこない。また、本州向けの生乳も8月以降気温が落ち着いたためか、前年実績に届いていない。
	□	輸送業（支店長）	取引先の様子	・特に大きな変化がみられない。
	□	通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・社会全般のインフレ傾向と同じく、当社の受注価格も緩やかな上昇傾向にある。

	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・ 製造業では企業物価上昇の影響が大きいことから、景況感の持ち直しに一服感がみられる。一方、人の動きが活発になっていることを背景に、非製造業の景況感は持ち直している。業種や業態によって景況感の濃淡がみられるものの、総じてみれば、道内景気は3か月前と変わっていない。
	□	司法書士	取引先の様子	・ 新型コロナウイルス感染症の感染状況が下火になりつつあるが、物価の上昇が止まらない。収入が目減りしている状況では、先行きも不透明であり、不動産などを購入できる者も限られてくる。当分の間、不動産取引は減少又は良く横ばいでの推移となる。
	□	司法書士	取引先の様子	・ 現状の景気は良くはないが悪くもない状態が続いている。受注量は割と多いが、販売できる量に限りがあるため、建築資材や半導体を使用する住宅設備の供給量が増えなければ、景気は上向いてこない。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ 資材高騰、人件費アップなどの影響で工事が見込みほど伸びていない。また、レンタル料金の値上げも進んでいない。
	▲	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 物価高に伴って買い控えの傾向がみられるようになっており、景気はやや悪くなっている。
	×	食料品製造業（従業員）	それ以外	・ 売上は余り変わらないものの、原材料やエネルギーなどの経費の高騰、人件費の上昇、人手不足などによって利益が全く出していない状況にある。
	×	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ 9月の販売量は前年比マイナス22%であったのに対して、3か月前の6月の販売量が前年比マイナス2%であったため、景気は悪くなっている。
	×	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ 新築住宅着工棟数が前年比80%程度で推移するなど、落ち込みが続いており、受注量にも影響が出てきた。ハウスメーカーにおいても下半期の見積り件数が減少している。
雇用関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ 求人数は堅調に増加している。最近では飲食系の求人が目立っている。繁華街にも客が多く出歩いており、店員を確保できないため、営業時間を短縮せざるを得ないという声も聞く。営業系も求人数が増加している。スキルの高い人材を求める動きがみられ、企業の営業拡大の様子がうかがえる。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ インバウンドの受入れ、県民割などの影響で引き続き宿泊業の求人募集が増加している。今後も外国人観光客の受入拡大に伴って、観光業全体で求人が増えるとみられる。小売業や生活関連サービス業も堅調に推移しているが、物価高、最低賃金引上げの影響で採用を手控えることが懸念される。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ 求人数は業種を問わず同等又は微増傾向で推移している。
	○	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・ 8月の新規求職者数が前年から4.5%減少している一方、新規求人数は前年から12.4%増加している。今後への懸念材料はあるものの、業況が堅調な企業を中心に求人が出されていることから、景気はやや良くなっている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 当地における8月の有効求人倍率は0.95倍であり、3か月前との比較では0.07ポイント上回っている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ 新型コロナウイルスの新規感染者数が減少していること、地域の基幹産業である農業が収穫期を迎えていることから、景気の先行きに明るさを感じていたものの、求人数の伸びに減速傾向がみられる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ コロナ禍にあっても影響の少なかった建設業界からの掲載申込みが激減しているものの、飲食、観光業界からの掲載申込みが回復してきたことから、全体的には景気は変わらない。

□	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年、前々年と比べて、企業の新卒採用の動きが鈍くなっている。10月1日の内定式を控えて、内定辞退する学生が少ないこと、又は企業が無理して採用予定枠一杯まで採る必要はないと考えていることが理由とみられる。学生の就職決定率に前年と大きな差がないことから、未内定学生の今後の就職活動に不安を感じるとともに、企業が慎重に先行きを見定めている状況がうかがえる。</li> </ul>
▲	職業安定所 (職員)	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・値上げが相次ぐ一方で、賃金上昇がそれに追いついていないことから、雇用環境が悪化している。</li> </ul>
×	*	*	*